

23章 觀

光

觀

光

1. 自 然 公 園

十 和 田 ・ 八 幡 平 国 立 公 園

(昭和11年指定)
(昭和31年八幡平追加)

概 要

国立公園十和田は八甲田山と十和田湖，奥入瀬溪流を含む地域からなり，公園の中心をなす湖は青森，秋田の両県に跨り周囲44km，東西10km，最深327mに千古の碧水をたたえ，変化の多い湖岸に茂る木々に囲まれ今なお原始の荘厳美を保っている。湖は南岸より御倉，中山の両半島が突出し湖を東西中北の四湖に分けているが，湖上には半島を繞って大小幾十の島が散在し，奇松巖上に匍い，夏は鬱蒼と秋は真紅の色を映えた紺碧の深湖は，筆舌に尽し難い美観である。

加えて湖の一隅より流れ出る奥入瀬の溪流は，子ノ口より焼山までに至る約14キロに亘り奇巖を打ち，懸瀑を越え島々をめぐって奔流するが，秋紅葉の頃となれば，唯々「造化の極美」に瞳をみはるばかりである。さらにこれを包む落葉樹林におおわれた八甲田山の雄大，豪荘の山岳美は特に名高く，四季それぞれの美を現出しつつ探勝者をまねいている。

下 北 半 島 国 定 公 園

(昭和43年指定)

概 要

下北半島は青森県の東北部から北へマサカリの形で突き出た半島である。本州の最北端に位置し，陸奥湾をはさんで津軽半島と向い合い，津軽海峡をへだてて北海道と相對する。海，山，温泉に恵まれ，仏ヶ浦の奇異な造型あり，荒涼とした風景で靈異の雰囲気に包まれている日本三大靈場の一つ，恐山あり，美しい溪流に沿う薬研温泉，そして森林に囲まれた湯の川温泉などは，都会人を魅了してやまない。

津 軽 国 定 公 園

(昭和50年指定)

概 要

津軽国定公園は，津軽半島最北端から西海岸に至る約180kmにおよぶ海浜域と十二湖，岩木山の湖沼と山岳地域を含む，自然的，人文的な観光資源に恵まれ，地域的にそれぞれ特徴のある景観を呈している。

特に本州北端に位置する竜飛崎，権現崎，高野崎等の浸蝕激しい海岸景観，屏風山地区の砂丘（七里長浜）高層性湿原植物，湖沼群の自然景観，加えて西海岸部にある十二湖は33湖からの湖沼群並びに白神岳と日本キャニオン等静寂にして神秘的な山岳，湖沼美を備えている。

津軽富士の名で有名な信仰の山，岩木山は独立峰として，山麓が広く，頂上からの眺めは素晴らしく遠くは北海道まで望むことができ，多様な動植物と，多くの温泉にも恵まれたところである。

大鱧・碓ヶ関温泉郷県立自然公園

(昭和28年指定)

概 要

津軽十萬石の城下町として栄えた弘前は、いまなお五重塔や長勝寺山門など機多の国宝級建造物を現存して往時の倂をとどめている。特に春五月桜花の頃ともなれば、遙かに聳える岩木の秀峰と往時そのままの白亜の天主閣を背景に三重の古濠に影を映す5千本の桜樹の紅は、爛漫の春を謳歌してつきぬものがある。

弘前から鉄道で約20分で大鱧に至るが、ここは平川の清流を挟んで、豪荘な旅館が軒をつらね東北屈指の温泉郷として知られ、さらにアジャラ山スロープは国体の開催などで全国的に知られたスキー場である。平川の上流更に鉄道で19分位にして碓ヶ関に至るがここは碓ヶ関御関所と溪流に臨む文次通り静寂な温泉地として有名である。

種差海岸階上岳県立自然公園

(昭和28年指定)
(昭和49年階上岳追加)

概 要

県南の首邑である八戸は、東北有数の良港として知られているが、遠洋漁業の基地であるため船舶の出入りがはげしい。また古い城下町だけに名所旧跡も多いが、波おだやかな白砂の白浜海水浴場や、ウミネコで知られる蕪島、さらにはリアス式海岸の極美を代表する種差海岸など明媚な風光にめぐまれている。

又、岩手県との境にある階上岳は、6月上旬2万本の山ツツジが咲きほこる。

浅虫・夏泊県立自然公園

(昭和28年指定)

概 要

全国有数の温泉郷として海浜の絶景とともに知られている浅虫温泉は東、南の三面に丘陵が連なり、西北方に青森を望み、海上指呼の間に湯の島、鷗島、裸島などの島々が浮び四囲の風光よく、浴後の島廻りも興を添えるが、夏の海水浴、秋の海釣りは又ひとしおである。東洋一の水中トンネルを有する青森県営浅虫水族館は、土曜、日曜日家族連れで賑わう。

又、浅虫より約12kmに白鳥と海浜遠浅瀬で知られている小湊がある。毎年12月ともなれば北方から飛来する幾千羽の白鳥の群、三々五々列をなして飛びながら磯馴松の島影に映ずる姿は壮観優美そのものである。付近海岸の景勝を眺めながら安井灯台を過ぎた夏泊半島の北端には椿の自生最北限地として、全山椿に覆われた椿山がある。

名久井岳県立自然公園

(昭和31年指定)

概 要

名久井岳（615m）の北側中腹に法光寺があり、慶長年間、肥後の禅僧橘指城が山上に草庵を建てて住んでいたが、最明寺時頼の知遇を得て千石の寺縁で建立したものであり、県南ただ一つの名刹で有名な西有穆山師もここに住職した。頂上まで5キロ、県南地方の霊山で法光寺のほか古刹恵光院、規模においては全国一といわれる三重塔があり、風光明媚で法光寺には、100名程度の宿泊できる設備があり、団体客でにぎわい、夏は仏法僧の鳴声が聞かれる。

岩木高原県立自然公園

(昭和33年指定)

概 要

岩木山の南麓に広がる高原を中心に、その東端に岩木山神社、高照神社等の文化財を有している公園である。また、温泉が豊富なこともあって、夏はキャンプ、ゴルフ、ハイキング、ハングライダー、冬はスキーで賑わう津軽国定公園岩木山ルートの表玄関である。

芦野池沼群県立自然公園

(昭和33年指定)

概 要

津軽平野北辺の池沼によって構成され、屏風山東辺の池沼は水性植物が群生し、その様々な配列が学術上貴重なものとされている。また、芦野公園は津軽の霊地、川倉地藏を有し、太宰治の記念碑と桜の名所で知られ、キャンプ、ピクニック等に適している。

黒石温泉郷県立自然公園

(昭和33年指定)

概 要

国立公園十和田に隣接している当地区は浅石川の流域一帯を含む広大な地域に跨り、名所旧跡、温泉、溪流、山岳等無数の景勝を包含し正に人工を加えた天然の一大公園である。

浅瀬石川は八甲田櫛ヶ峰岳及び十和田湖岸の芦柄岳に源を発し津軽の沃野を潤しているが、水清く流れ速く、その間滝の股摺毛の溪谷、十湾山原生林、中野山の紅葉、切明関所跡、小国城趾、大穴 夷民族居住遺跡など山岳溪流、美林の景勝地や遺跡、古跡に到るまで枚挙にいとまなく、さらには天然記念物として注目される飛穴植物群落袋温湯石割楓等もある。一方、温泉の豊富な事は他に類を見ず、温湯、落合、板留、青荷、下目内、切明、温川など七指を越え、山間地独特の静寂な溪流にのぞみ清遊地として、又保養地として好適であり、十和田湖へのコースの途中である。

赤石溪流暗門の滝県立自然公園
(昭和56年指定)

概 要

当公園は、中津軽郡西目屋村の目屋ダムによる人造湖、美山湖付近から暗門の滝、西郡鱒ヶ沢町の赤石川上流域にかけての帯状の地域と、飛地として鱒ヶ沢口の種里城趾を含めた総面積 5,431 haの区域である。この地域は出羽山地の北端に当たり、連続する山脈と急な谷が複雑な地形を形成しており、変化に富んだ自然景観を見せてくれる。

特に、広葉樹に覆われた溪流と地元の信仰の場ともなっている。高さ85mのくろくまの滝を含む赤石溪流地区、典型的なV字谷地形を作り、暗門の滝(1の滝42m, 2の滝37m, 3の滝26m)で知られる暗門溪流地区、総貯水量 3,900万tの目屋ダムで作られた人造湖、美山湖、野外レクリエーションの場として適している種里城趾等、数多くの探勝者を魅了する。

2. 主 なる 名 所 旧 跡

地 域 名	所 在 地	特 徴	交 通 機 関
青 森 市	青 森 市	国立公園十和田コースの基点、北海道、本州との関門として古くは善知鳥(うとう)村から経済、交通の要所として栄えた人口28万余の県都。八甲田山、浅虫温泉を含む東北の上位の都市である。	青 森 駅
酸 ヶ 湯 温 泉	青 森 市	八甲田山中腹にある国民温泉酸ヶ湯。300年の昔、狩人が傷を治している鹿を発見して温泉を知り、以来鹿湯と呼ばれていたが、酸性が強いため現在の酸ヶ湯となった。付近は地獄沼蒸湯又東北大学高山植物研究所等があり、温泉及び観光地として有名。	青森駅からJRバス

2. 主 なる 名 所 旧 跡 (続)

地 域 名	所 在 地	特 徴	交 通 機 関
八 甲 田 山	青 森 市	国立公園十和田内にある海拔1,585 mの標高を持つ休火山で、大岳、小岳、高田大岳、赤倉岳等八峰によりなっており、春夏秋冬の優美を誇る。	青森駅からJRバス
蔦 温 泉	上北郡 十和田湖町	明治の文豪大町桂月のゆかりの地で、ブナ原生林の中に静かに眠る蔦温泉は、単純泉で豊富な湯量と付近は絶好のハイキングコースで観光客を楽しませる。	青森駅からJRバス
奥 入 瀬 溪 流	上北郡 十和田湖町	十和田湖から流れる唯一の流路、あるいは滝となりあるいは瀬を噛む躍動的な流れは全国溪流美の代表的な存在で特別名勝地に指定されている。	青森駅からJRバス、三沢駅から十和田観光電鉄バス
十 和 田 湖	上北郡 十和田湖町	国立公園十和田の中心をなすこの湖は、青森、秋田の両県に跨り、周囲44km、東西10km、南北8km、最深327m、千古の碧水をたたえた原始の壮麗美は「幻の魚」ヒメマスと共に全国に名高く、特別名勝地に指定されている。	青森駅からJRバス、三沢駅から十和田観光電鉄バス、弘前駅から弘南バス
弘 前 城	弘 前 市	津軽10万石の藩政の中心地として古くから栄えた弘前は、日本7名城の一つ弘前城をはじめ最勝院、五重塔、弘前八幡宮中門、長勝寺三門等数多くの重要文化財を有し、観光地として全国的に名高い。	弘前駅から弘南バス
浪 岡 城 跡	南 郡 浪 岡 町	吉野朝(14世紀後半)初期東北地方に活動した北畠氏は親房の子顕家、顕信等が拠点を失った後、陸奥、出羽の北方に逃れて後図を計ったといわれるが北畠氏最後の拠点としての浪岡城跡は、北畠累代の墓所と共にその面影を残した由緒ある史跡指定地である。	JR浪岡駅から弘南バス
猿 賀 神 社	南 郡 尾 上 町	この神社の祭主は仁徳天皇時代、エゾの地に戦死した田道命を祀り旧藩時代までは天台宗神宮寺が別当であった、津軽地方三大祭典の一つとして陰暦8月15日の行事には数万の参詣者が集まる。この境内林はイチョウ、ハルニイを数株交え3月下旬から9月下旬まで、アオサギ、ゴイサギ、ワカサギ等が群集し営巣する。このワカサギは天然記念物に指定されている。	弘南鉄道 黒石駅から弘南バス
大 鱈 温 泉	南 郡 大 鱈 町	古くから温泉の地としてまた観光地として知られ冬は国体スキー競技場として全国に名高い。更に隣村碓ヶ関温泉を加えて大鱈、碓ヶ関温泉郷として県立自然公園に指定されている。	大鱈駅から徒歩

2. 主 なる 名 所 旧 跡 (続)

地 域 名	所 在 地	特 徴	交 通 機 関
岩 木 山	中 郡 岩 木 町	本県の最高峰として海拔 1,625 m の岩木山は、岩木、巖鬼、鳥海の三峰に分れ、その姿は富士に似ており津軽富士とも称されている。旧暦 7 月下旬から 8 月上旬にかけて、津軽地方の守護神様といわれる岩木山神社に、五穀豊穡と家族安泰を祈願し白装束での登山行事が行なわれていたが、現在は女人禁制も解かれ、県外からの登山客も集る。	弘前駅から弘南バス
岩 木 山 神 社	中 郡 岩 木 町	岩木山の麓に顕国王神、多都北売神、宇賀能売命の三神を祀る岩木山神社があり、津軽地方の総鎮守として岩木山を信仰する神社である。奈良時代光仁天皇の宝亀 17 年 (780 年) 北麓十腰内に宮居を定め堀川天皇の寛治 5 年 (1091 年) に南麓の今の地に移したという説がある。宮居は天正 17 年 (1589 年) 火災になったが慶長 6 年 (1601 年) 津軽為信の崇敬によって再興し、9 カ年を費して本殿唐門四脚門、玉墻など造営したが明治初期 (1872 年) 廃仏棄釈に当って多くの文化財は散逸し現在では少数の什物のみとなっている。近くに百沢及び獄温泉がある。	弘前駅から弘南バス
暗 門 の 滝	中 郡 西 目 屋 村	県内随一を誇る暗門の滝は三段に分れ、一段の滝は 42m に達する。また瀑布で 4 km 離れた所から瀑音が聞えるといわれる。	弘前駅から弘南バス
深 岩	西 郡 深 浦 町 〃 岩 崎 村	J R 五能線沿線は、いわゆる西海岸と呼ばれ、深浦を中心にして奇岩、怪礁、白砂の流辺あり、地震で海床が隆起し奇観を呈する千畳敷があり景勝地としてすぐれているばかりでなく、30 余の沼が連鎖状を呈する十二湖と秋の紅葉は、観光地として代表的なものである。また、津軽文化の発祥地としての史蹟も多く、昔坂上田村麿が安置したと伝えられる十一面観音が古刹春光山円覚寺にあり、境内には千年を経た老杉、大銀杏が昔の面影をしのぼせる。	深浦駅から弘南バス
亀ヶ岡遺跡	西 郡 木 造 町	旧館岡村の亀ヶ岡に発掘された土器から、弥生式文化が西日本に、縄文式文化は東日本に栄えたということがわかり、しかも北上するに従って発達の度を高め、本県はこの文化圏の晩期には中心的地位にあたり亀ヶ岡がその核心をなしていたことが証明されている。	五所川原駅から弘南バス
竜 飛 岬	東 郡 三 厩 村	津軽半島の最北端にある竜飛崎は奇岩の連続、海	三厩駅から青森

2. 主 なる 名 所 旧 跡 (続)

地 域 名	所 在 地	特 徴	交 通 機 関
斐月海岸	東郡今別町	岸線屈曲に富み、北海道を目前に眺めた景観は、遊覧に最適地として知られる。又、三厩村には昔源義経が弁慶を従いこの地から渡道したと伝えられる義経寺がある。	市営バス 青森から青森市営バス
七戸城跡	上北郡七戸町	七戸城は南部又次郎師行の弟南部六郎政長が奥州から新田義貞の鎌倉攻めに参加し、此の軍功により建武元年甲斐鎌倉見山の地を賜っており、その後七戸の地を賜り根拠とし政長の孫政光が領知して改修しその子孫が相継いだといわれる。高さ100尺、東西97間、南北60間の1,209坪余りで、本丸には堀を巡らしたらしく今も少しの水をたたえる。	青森、今別、蟹田から青森市営バス 上北町駅から十和田観光電鉄バス 十和田市から十和田観光電鉄バス 野辺地駅から南部縦貫鉄道
法量の公孫樹	上北郡 十和田湖町	法量のイチョウは法量淵沢善正寺跡にあり雄株で樹高約27m、幹のまわり12m、太枝が俗に乳と呼ぶ柱瘤が多数垂れ下がり、その最大のもは基部周囲約60cm、長さ2.42mもある。地上数米の所から36本の太枝が繁り樹相雄々しく、夏緑の姿は周囲の風情と相呼応し一大パラダイスの景観を呈している。この樹齢は約千余年と推定され天然記念物に指定されている。	十和田市から十和田観光電鉄バス
櫛引八幡宮	八戸市	櫛引八幡宮は、南部氏の始祖光房が貞応元年甲州より遷座したものとされ、同社所蔵の五種の甲冑が国宝に指定されている。	八戸から南部バス
八戸市	八戸市	八戸市は昔、南部道房2万石の城下町として、また県南の首邑として栄えた。現在は東北有数の工業水産都市として人口24万余を数えている。八戸市にある蕪島は天然記念物うみねこの繁殖地として全国的に有名である。	本八戸駅
種差海岸	八戸市	八戸市の海岸“うみねこ”繁殖地の蕪島を含んで対岸の鮫町から、白浜、深久保、種差、法師浜大久喜の弁天島までの8kmを起伏のなだらかな平原と松原、海浜の芝生、太利の怒濤をかむ巨岩、奇石又放牧の馬等が織なす情趣は、景勝の地として偉観を呈し、昭和12年名勝地に指定されている。	八戸線種差駅
法光寺	三戸郡名川町	法光寺は、昔御深草院の御代建長年間の開創で、	剣吉駅から名久

2. 主 なる 名 所 旧 跡 (続)

地 域 名	所 在 地	特 徴	交 通 機 関
浅 虫 温 泉	青 森 市	鎌倉執権最明時頼公が奥州行脚の際この地に登り、時の無銀山観音寺に意を留め、鎌倉から大工、左官、鍛冶、木挽等を派遣して新たに七堂伽藍を建立し、白華山法寺と号したといわれる。	井まで南部，三 八五バス
浅 虫 温 泉	青 森 市	全国有数の温泉郷として海辺の絶景地として知られ、青森県営浅虫水族館もある。	浅虫温泉駅
椿 山	東 郡 平 内 町	全山椿に覆われた椿山は海岸線の景勝と相俟って春5月の開花する頃は一大壮観を呈し、椿の自生最北限地として天然記念物に指定されている。この椿についての伝説もある。	小湊駅から青森 市営バス 青森から青森市 営バス
浅 所	東 郡 平 内 町	平内町小湊から椿山への途中、浅所海岸は白鳥の渡来地として有名である。毎年12月下旬群をなして渡来するがその来る場所、去る場所は明らかでない。この白鳥は特別天然記念物に指定されている。	同 上
尻 屋 岬	下北郡東通村	尻屋岬は下北半島の北東端をなす岬で、この海岸一帯は奇岩連続し、景勝地として又航路の難所としても有名である。ここにある尻屋灯台は明治9年に建造されたものである。	むつ市から下北 交通バス
恐山・薬研温泉	下北郡大畑町 む つ 市	下北半島の中央部に聳える恐山は休火山で日本三大霊場の一つとして有名である。又薬研温泉は紅葉と岩石嶮峰の多い溪谷美に富んで有名な山峡の温泉で周囲は三大美林の一つひばの原生林に覆われ仏法僧の鳴声も又神秘的である。	大畑町から下北 交通バス むつ市から下北 交通バス
仏 ケ 浦	下北郡佐井村	この沿岸一帯は奇岩怪岩が到るところ峭立し凄愴の気に打たれ、絶景を誇る観光地で名勝地、天然記念物に指定されている。	青森市、佐井村 から下北汽船
下 風 呂 温 泉	下北郡風間浦村	太平洋に面した磯の香の漂う岩磯の温泉として特殊な趣きがあり、観光地として名高い。	むつ市、大畑町 から下北交通バ ス
是 川 遺 跡	八 戸 市	是川遺跡からは新石器時代縄文式文化期の遺物が多数出土しており、特に植物性遺物が学界の注目を浴び、昭和18年史跡に指定されている。出土品は300点にのぼっているが、その大多数は重要美術品の指定を受けている。漆の加工された精巧な土器類と共に漆加工の植物性遺物が多数発掘されていることが特徴である。	八戸市から八戸 市営バス

資料 県観光物産課 (注) 本表は文化財と多少重複する個所もある。

3. 主なる天然記念物及び文化財

ウ ミ ネ コ

鴟科に属する鳥で八戸市鮫駅より北へ1キロの沖合にある周囲2.7キロの燕島を繁殖地としている。地元では「ゴメ」ともいう。雌雄同型極めて愛らしい小鳥である。彼女らは3月中旬南の島から八重の湖路を白い翼に託して渡来し始め4月中旬頃までに全群棲集団となる。その頃から島の草原や岩石の凹みなどに、足の踏場もないほど巣をつくり5月には、一つの巣に三つ位の卵を産み雌雄交互に抱いて孵化する。これが3週間から24日目位で、6月上旬には親鳥に連れられて岩蔭や草原に遊んでいる可愛い雛を見る事が出来る。やがて8月中旬から9月中旬にかけて一人前に成長し島の付近を飛び廻るようになり、10月上旬海上を自由に飛べるようになれば一群、二群と島を去り南に帰って行き、翌春この島を訪れる頃には一人前になっている。土地の人は彼女達を神の御使姫と呼んで大事にしている。

ハ ク チ ョ ウ（特別天然記念物）

東郡平内町浅所は白鳥の渡来地として有名だが、海岸遠浅瀬を群をなして毎年12月下旬飛来し、何処から来て何処へ去るか未だ判然としていない。一説にはノルウェーの北部海岸あるいはシベリアといわれている。磯馴松の島影を映ずる小松島は橋でつながれ、地元民は毎年飛来する数千羽のハクチョウを神の使いとして大切に保護している。

椿 山

平内町浅所海岸からバスで安井崎灯台を過ぎ優美な景観を誇る海の終点、東田沢に有名な椿山と椿山神社がある。ここは全山椿に覆われ自生最北限地として天然記念物に指定されている。この椿は昔越前の横峰嘉平という商人が交易にきて土地の娘タマとねんごろになった。あるときしばしの別れで悲嘆にくれるタマに椿油を持って必ず訪ねると約束して国へ帰った。嘉平が翌年再び訪れたときには、タマはすでに亡く、嘉平はやるせない思いを胸に持参した3株の椿をタマの墓畔に植えてこの地を去った。その霊がこもって南国の椿が全山に広がったと伝えられ、小高い山の頂上から椿山を見下す美しさは古人をして

“あらいそに寄せ来る浪も照るばかり

田沢の山に咲く玉椿”

と詠嘆せしめている。神社の境内は天然の芝生で家族連れのピクニックに好適である。

法量の公孫樹（銀杏）

上北郡十和田湖町の法量にある銀杏の木は、奥入瀬川に沿う路の丘上にあり樹齡一千年といわれる地上5尺の周囲16尺、樹高72尺の大銀杏である。

猿 賀 神 社

黒石市よりバスで4キロ、弘前鉄道尾上駅より1キロの所に猿賀神社がある。昔、坂上田村麿が勅を奉じて建立したものとされている。この神社は殺生禁断の地としても名高く各種の鳥が飛来する。

長 勝 寺

弘前市内西茂森町にあり、津軽家累代の菩提寺として寺格高く津軽曹洞宗の本山であった。ここは津軽侯が事ある場合に備えて僧兵を置いた寺で、道をはさんでこの長勝寺には藩祖以下の歴代の霊屋がある。長勝寺の正門を入ると高さ8間の桜下には金剛力士の像、桜上には五百羅漢を安置している。梵鐘は北条貞時の寄進になり国宝に指定されている。嘉元四年丙午鑄造の華鯨堂庫及び蒼竜違の諸建築など壮麗な一大伽藍である。

最 勝 院（五重塔）

最勝院境内にある五重塔は国宝で、寛文8年藩祖為信が津軽を統一した際に戦死した敵、味方の供養のため四代目信政の建立したものであり、4年の歳月と一万四百二十両の工費を要したといわれる、高さ17間1尺、広さ4間5尺四方、露盤及び九輪宝珠はともに渡辺近江大緑の作である。軒の出深く折組は三手先を用い、繁雑な装飾を用いずして坊齋の美を現している。この塔は単なる招魂堂ではなく軍事上夷敵を監視する目的をもたせて造られたものといわれる。

弘 前 城

弘前城は津軽の藩祖為信が企画し二代目信政が慶長15年2月着工し、同16年6月完成したもので、以後三百年間津軽十萬石の居城で日本七名城の一つに数えられる。本丸、武者溜、二の丸、三の丸、内池、四の北、西の廓八、櫓と城門十二、濠三重、東西五町四十間、南北八町四十六間、面積14万4千余坪の平山城である。築城以来一度も戦災を被らなかつただけに櫓、桜門など昔のままである。天守閣は落雷のため焼失したもので後三層に構築したものである。城内には老杉が翠を飾り、5千本の桜の名木が繁っている。桜は正徳5年嵐山から25本の吉野桜を移植したのが始めといわれているが、現在ある5千本は故山内寛弥翁が明治12年城内数ヶ所の空地を開拓し、以来数回に亘り大量移植したので現在の如く東北一の桜の名勝となったもので、例年4月下旬から5月上旬のさくら祭りには遠方からの団体客などで賑わう。本丸の石垣の入口には千年の鶴の石、万年の亀の石が配置され、松上ではウグイスやホトトギスが鳴き、清澄な内濠には葦が一面に生えている。弘前市の西北3里津軽平野の真只中に巍然として聳える海拔1,625mの岩木山を本丸から眺める風景は、あたかも三保の松原と富士山を彷彿せしめるものがある。春は桜花、夏は蓮華、秋は紅葉で俗塵を脱した市民の行楽の地である。

熊 野 八 幡 宮

もと中郡大浦村鼻和庄八幡村にあったものを津軽為信が堀越城に遷座し、さらに慶長17年信政が現在の地に勧請して弘前の鎮守とした。金剛山最勝院に三百石を賜り、この八幡の別当としたが、神仏混淆を廃せられた後、最勝院は大円寺に移された。祭神は菅田別尊外三神で、境内には老杉が茂り、樹間から岩木山と八甲田山を西と東に眺められる景勝の地である。

誓 願 寺（貞昌寺）

この寺は約四百年前津軽為信が京都の誓願寺を招じて大光寺町に建立したが、慶長年間弘前に移し為信の室月尼の廟所として津軽一宗の総録と定めた。浄土宗に属し県下で一番古く、同宗第一の寺格をもち藩主の菩提寺として貴重品が保存されていたが失火で全焼した。その後再建して現在に至る。

岩 木 山 神 社

中郡岩木町百沢にある。顕国王神、多都北売命、宇賀能売命の三神を祀り、津軽地方総鎮守の社として崇められている。祠堂は結構壯麗を極め彫刻が精巧で奥日光の称がある。延暦15年桓武天皇の草創といい又、坂上田村麿將軍の造営ともいわれる。津軽家に至っては崇敬最も厚く、寛永5年本堂を築造し、本社は津軽信政が貞享3年から元禄7年にいたる7カ年の月日と18万両を費して造営したもので、本殿及び桜門は国宝に指定されている。お山参詣はこの神社の祭典日で旧（陰暦）8月1日に行われ、神社参詣と岩木登山をかねて参拝するものである。

4. 自然公園観光レクリエーション客込数等

(単位：千人、%、百万円)

公園名	観光地名	56年	57年	58年	59年	60年	61年	62年	63年	元年	2年	対前年比
国立公園	十和田	2,301	2,537	2,365	2,443	2,563	2,812	2,837	2,777	2,982	3,110	104.3
国定公園	下北半島	1,097	1,158	1,149	1,193	1,253	1,348	1,336	1,270	1,321	1,292	97.8
	津軽	2,017	2,096	1,763	1,879	2,035	2,220	2,153	2,220	2,231	2,336	104.7
県立自然公園	浅虫温泉	811	789	1,174	1,048	1,051	1,093	1,080	1,089	1,125	1,176	104.5
	大鰐・碓氷関ヶ原温泉郷	825	843	873	1,049	1,065	1,154	1,115	1,031	1,030	1,161	112.7
	種差海岸上岳	621	529	490	543	567	587	565	584	624	670	107.4
	名久井岳	402	397	373	383	403	430	422	420	429	441	102.8
	岩木高原	426	429	411	413	424	454	453	468	483	495	102.5
	黒石温泉郷	426	463	499	532	547	590	598	665	937	1,158	123.6
	芦野沼群	353	381	319	354	418	419	418	458	453	496	109.6
	赤石溪の暗門流	65	65	81	97	104	108	98	99	101	124	122.5
	小計	3,929	3,896	4,220	4,419	4,579	4,835	4,749	4,814	5,182	5,721	110.4
合	計	9,344	9,687	9,497	9,934	10,430	11,215	11,075	11,081	11,716	12,459	106.3
観光消費額		58,914	61,742	61,881	63,192	68,044	74,193	72,865	68,416	73,963	78,553	106.2